

尹達世さんを偲ぶ—尹さんとむくげの会 飛田雄一 むくげ通信266号 2014.9



(リトルガリヴァー社著者紹介HPから)

尹達世（ユン・ダルセ）さんが、9月19日、癌性髄膜炎のため亡くなられた。尹さんは、1945年、愛媛県内子町生まれで69歳だった。同志社大学文学部社会学科を卒業され、姫路獨協大学非常勤講師、大阪経済法科大学客員研究員などをされ、兵庫津・朝鮮通信使を知る会代表幹事もされていた。

お別れ会（お通夜）が21日、葬儀が22日、神戸市須磨区の川嶋本店フィンカで営まれた。

尹さんは、2001年4月から2002年12月まで短い期間だったが会員として、例会での発表や通信への投稿をされました。会員になる前からむくげの会と尹さんは、すでに1971年のむくげの会設立後の早い時期に接点があった。

1971年4月18日、むくげの会は私学会館（元町）で「南朝鮮を考える市民の集い—4.19李承晩打倒南朝鮮人民蜂起11周年を迎えて」を開いた。当日集会資料として、「4.19学生宣言」や「統一革命党の綱領・宣言」も配布された。その案内を改めてみてみると、この二つの資料を当日配布すると書いてある。そのためか、会場に韓国人グループが参加し、統一革命党が韓国にあるはずがない、韓国の状況をどう理解しているのかなど多くの質問が出され、主催者・むくげの会はたじたじだったのである。統一革命党の資料を準備した会の先生であった佐久間英明さんが、ひとりで応答したが、他のメンバーはなんのことかさっぱりわ

からず終始おろおろしていたのである。集会名自体が今から考えるとどうかという面もあるが、むくげの会スタートのころの、淡い？思い出の一頁である。

その韓国人のグループは、韓民自統（青）のグループで、顧問的に全海建さんも参加されていた。そのメンバーの中に尹達世さんもいたのである。

個人的なことであるが、尹さんは私の兵庫高校5年先輩になる。3つ上の姉も兵庫高校だったが、姉が1年生のときに3年生であった尹さんが姉のことも知っていた。当時新聞部のメンバーであった尹さんは姉の学年に働きかけをして、姉の同級生が新聞部に入部もしている。

先日、尹さんのお通夜のときその姉の友人も参列していて「ゆうちゃん（飛田雄一の当時のニックネーム、「男前のゆうさん」からきている。わかるかな？」）と声をかけられてびっくりした。姉の友人の弟が私と同級生で当時からよく知っていたのである。

その後も、統一日報神戸支局長をされていた時期にはよくお会いし、東京で仕事をされたときにも、帰省されたときにはときどきお目にかかるついた。兵庫民団の事務局長をされたときには、更によくお会いする機会があった。

尹さんがむくげ通信に書かれた原稿は、以下のとおりである。会員に中世のことを勉強している唯一のメンバーとして貴重だった。新聞記者であった尹さんの文章は読みやすく人気があった。

1. 朝鮮女性と柿の本—壬辰倭乱余聞・滋賀県(186号、2001.5)
2. 種子島の被虐人＜壬辰倭乱余聞・種子島＞(187号、2001.7)
3. 牛窓の朝鮮場様＜壬辰倭乱余話・岡山県＞(188号、2001.9)
4. 加賀文化に寄与した朝鮮被虐人たち (189号、2001.11)

5. 壬辰倭乱余聞・石川県②加賀藩を支えた朝鮮の被虜人（190号、2002.1）
6. 研究レポート「沙也可トレッキング」（192号、2002.3）
7. <壬辰倭乱余聞 石川県③>加賀藩に朝鮮砲術を伝えた被虜人（192号、2002.5）
8. 活字の中の降倭・沙也可一沙也可トレッキング②ー（193号、2002.7）
9. 活字の中の降倭・沙也可一沙也可トレッキング（3）（194号、2002.9）
10. 活字の中の降倭・沙也可一沙也可トレッキング（4）（195号、2002.11）
11. 活字の中の降倭・沙也可一沙也可トレッキング⑤（196号、2003.1）

むくげの会では年1回合宿を行っている。最近は韓国にでかけることが多いが、以前はワゴン車で近場に出かけていた。尹さんが会員であった2002年1月の合宿は、和歌山で尹さんがフィールドワークの案内をしてくださった。調査・研究では現地主義を貫く尹さんの案内は、大変充実したものであった。



むくげの会のゲストディは、最近は会員の発表よりも多く、より？充実したものであるが、尹さんは、入会以前にもまた退会後にもゲストとして3回来てくださっている

- 2001/02/27、「朝鮮の役の被虜人」について
- 2007/11/06、沙也可の姓名について
- 2008/6/17、高橋是清公園の王妃（淑容沈氏）墓石の発見

尹さんは、2000年7月から今年5月まで兵庫朝鮮関係研究会の会員として例会での発表とともに機関誌、兵朝研編著の単行本、あるいはむくげの会のメンバーも加わった『デカンショのまちのアリラン』に多くの原稿を書かれている。

単著として出されたのが次の2冊である。

- 『四百年の長い道—朝鮮出兵の痕跡を訪ねて』リトル出版 2003年
- 『四百年の長い道・続編—朝鮮侵略の痕跡を訪ねて』リトル・ガリブラー社 2011年



左の本については、『むくげ通信』202号（2004.1）に住田真理子が書評を書いている。

まだ69歳の尹達世さんが亡くなられたのは悲しい。3冊目の単行本出版の準備をされていて、時間がないと言われていたとも聞いている。ご自身が一番悔しかったのではないかと思うと辛くなってくる。でも尹達世さん、ごくろうさまでした。安らかにお休みください。